

組み合わせ
語る

プリントにある**11**種類のデータから
2つ選んでグラフ化し、
何らかの推論を導き出してください。

組み合わせ達人 **8**名様

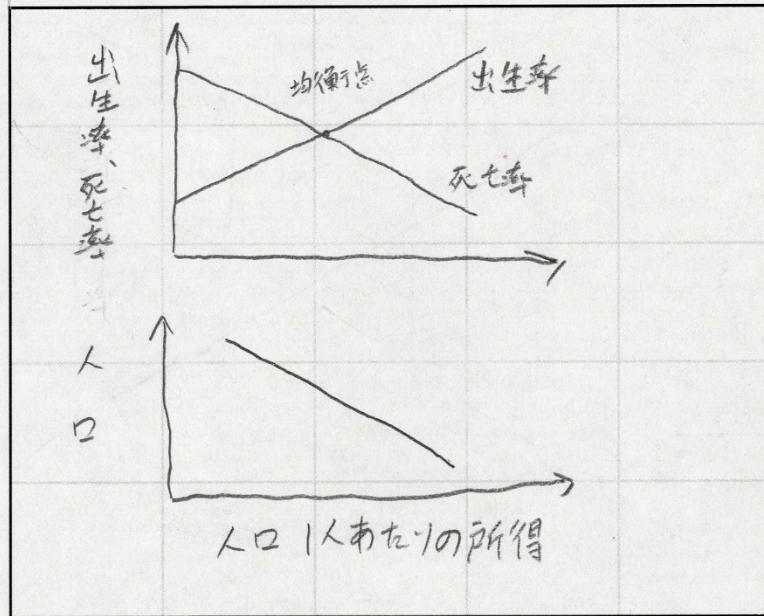
マルサス曲線修正

TITLE: 現在のマルサス的経済

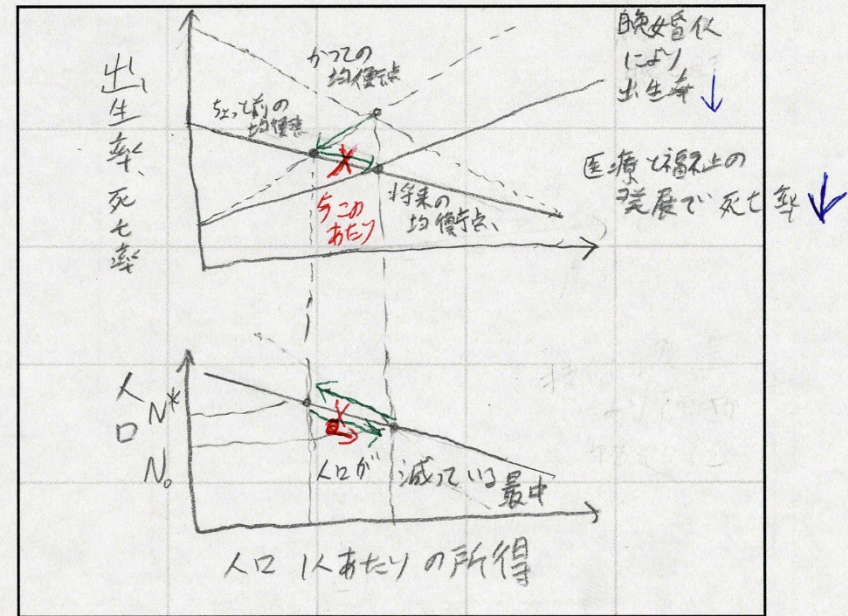
選んだのは

① & ⑦

かつてのマルサス的経済



現在



これらを組み合わせて言えることは...

死亡率の減少により人口が増えたが

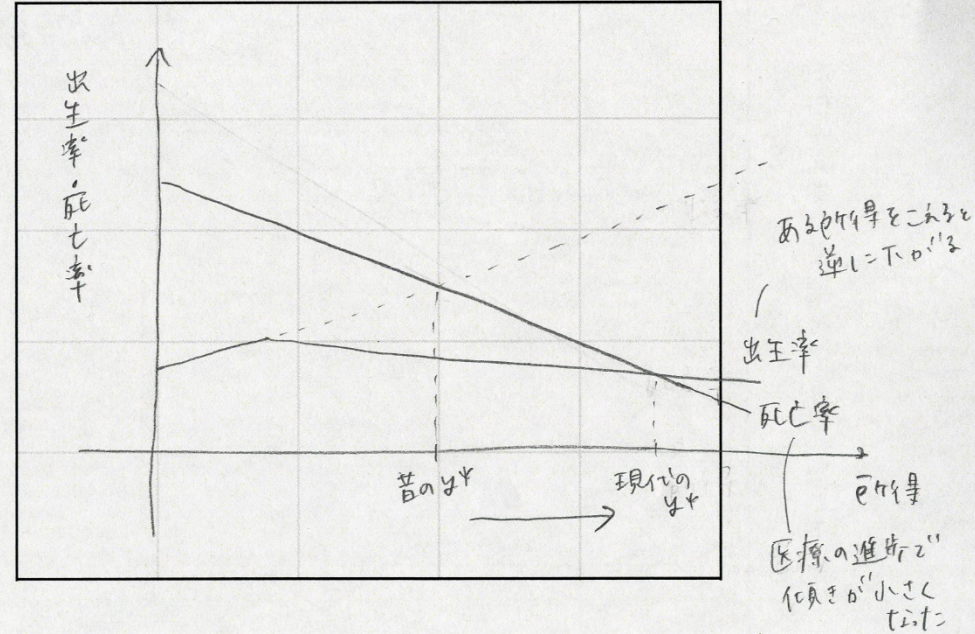
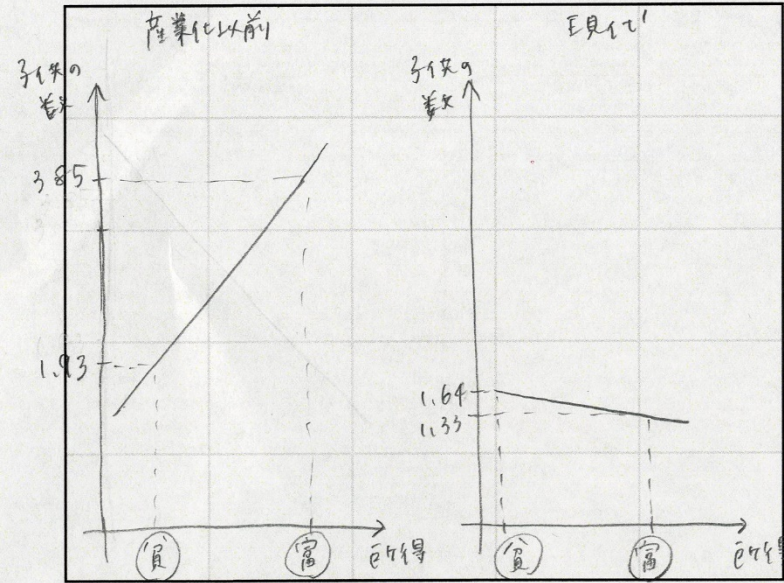
個人の自己実現のため出生率が低下し、かつての人口に戻る途中が現在である

現代の出生率分析

TITLE: 子供をもつハードルの高さ

選んだのは

⑦ & ① の現代ver



これらを組み合わせて言うことは・・・

産業革命がおきる前は所得が低く裕福なほど子供を多く持ち、貧しい家庭は子供が少なかった。現代では家が裕福なほど子供が少ない。これは、①昔はお金に余裕がある＝子供を育てる余裕があるという考えだった。②現代はブラック企業が 많아、所得がたかでもその分働かなくて家に帰れないので子供を何人も持つ余裕がない。という2つの理由が考えられる。このため、お金を稼いでも家がほど子供を育てる余裕がなかったり、出生率も単調増加のと考えられなくなった。産業革命以前より最低生存所得が上がり、子供を持つハードルが上がりつつある。

ヤノマモを見習え!?

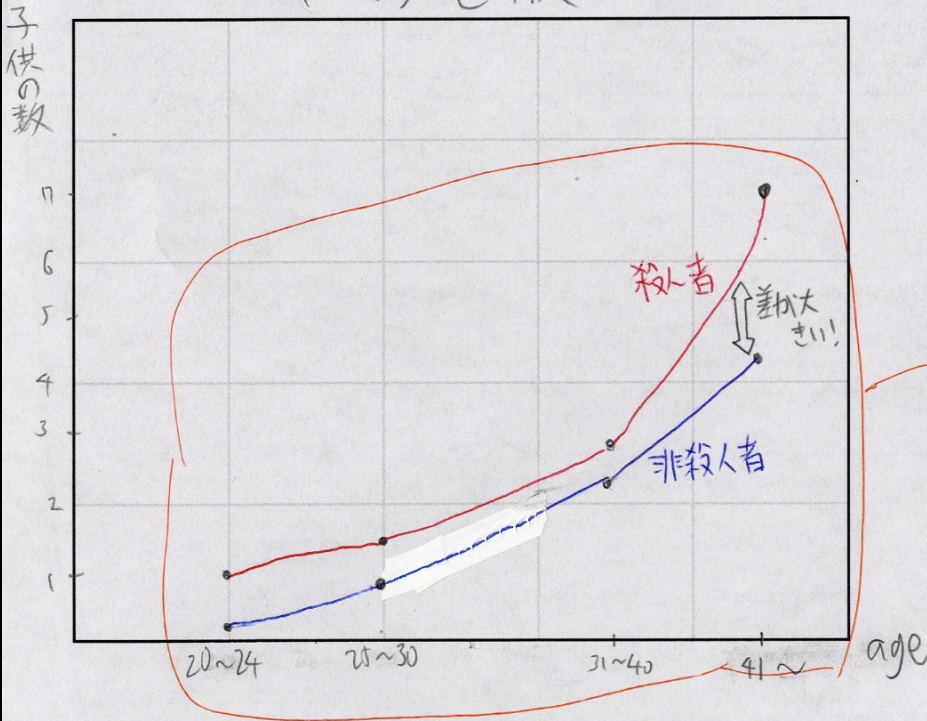
TITLE: 成熟した社会におけるヒトの生殖離れ

選んだのは

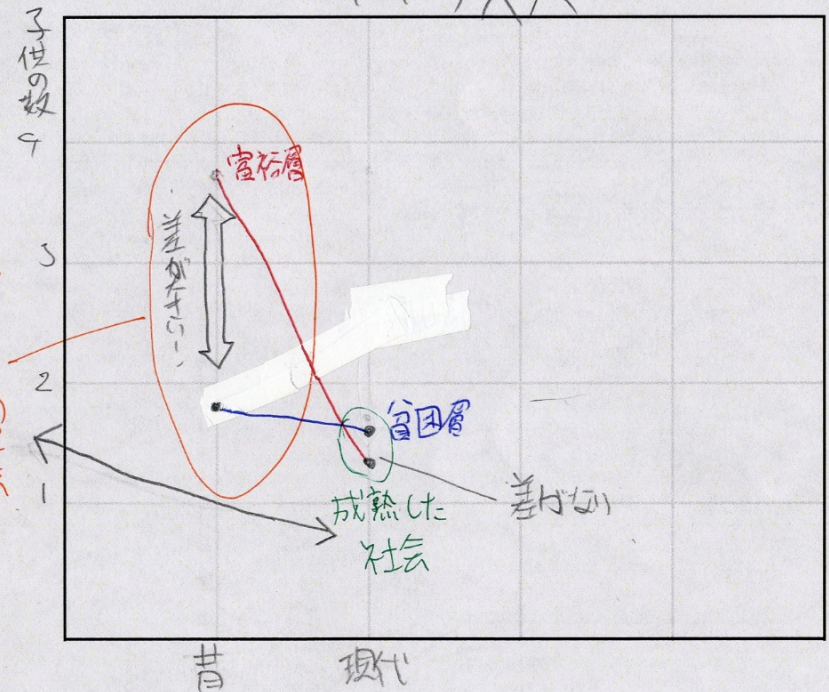
6 & 7

ヤノモ 族

イギリス人



発展途上の社会



これらを組み合わせて言えることは...

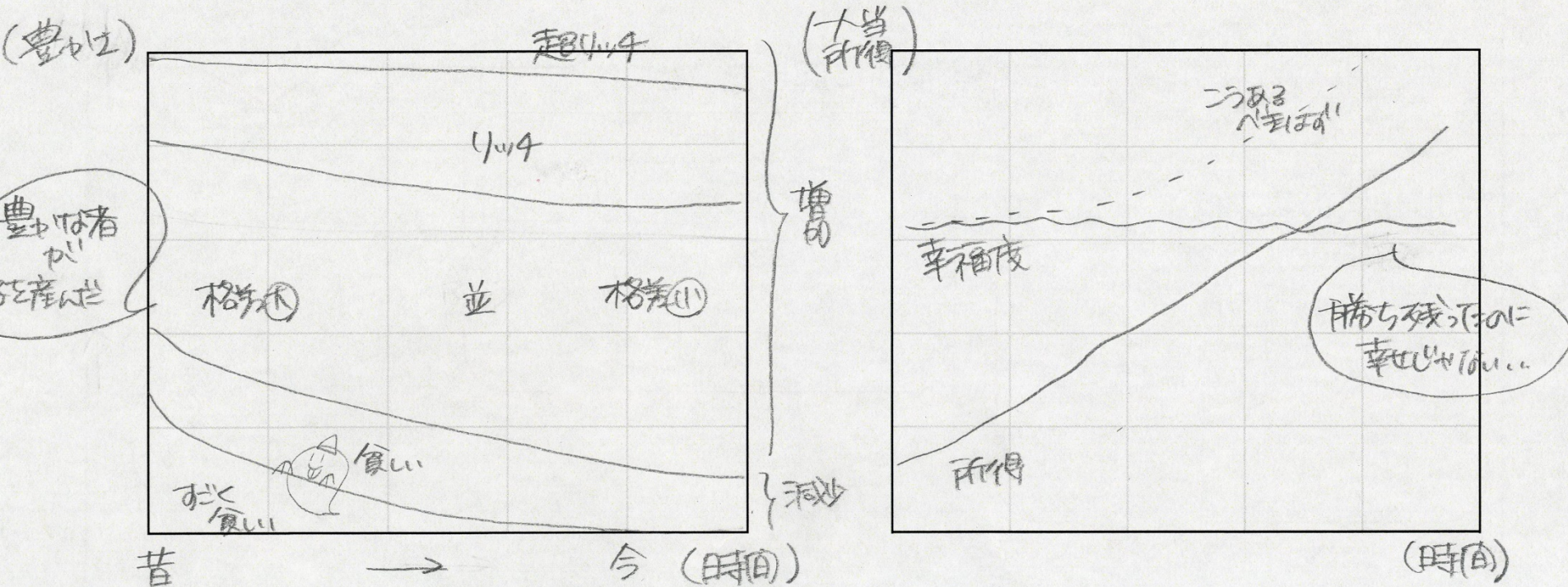
最近の若者はけしからん! 昔は頑張って生活と両立できる上限まで子供を作っていたのに、今は社会の複雑なしがらみがリミッターとなっている! 人間は社会をやめる

幸せになれない心理

TITLE: 陥落と上りた者たちの心霊

選んだのは

2 & 8



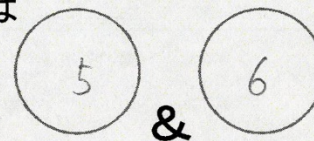
これらを組み合わせて言えることは...

「貧しい者が陥落と上り、中流階級が増える。自分たちより貧しい人たちは減ったから、むしろ自分たちが皆にせよと貧しいことになる!」→ 相対的幸福度下まくなならない

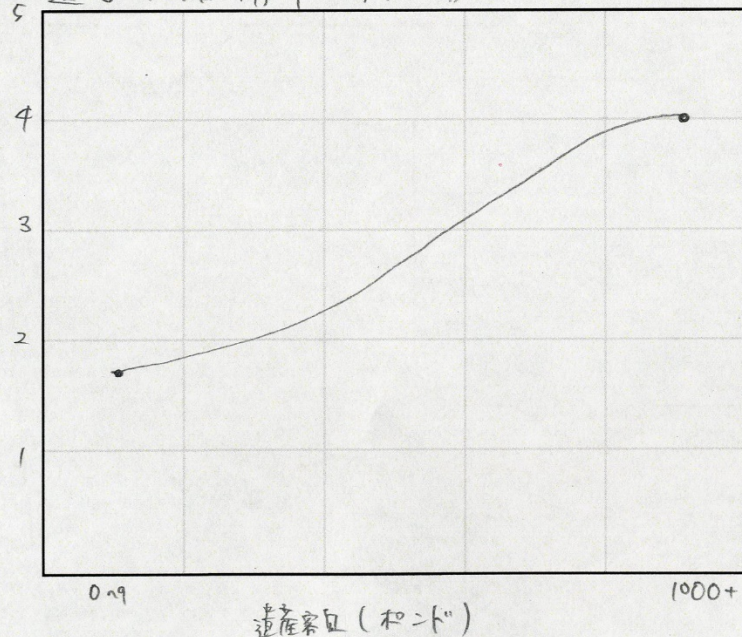
世代間移動のていねいな分析

TITLE: 一家繁栄

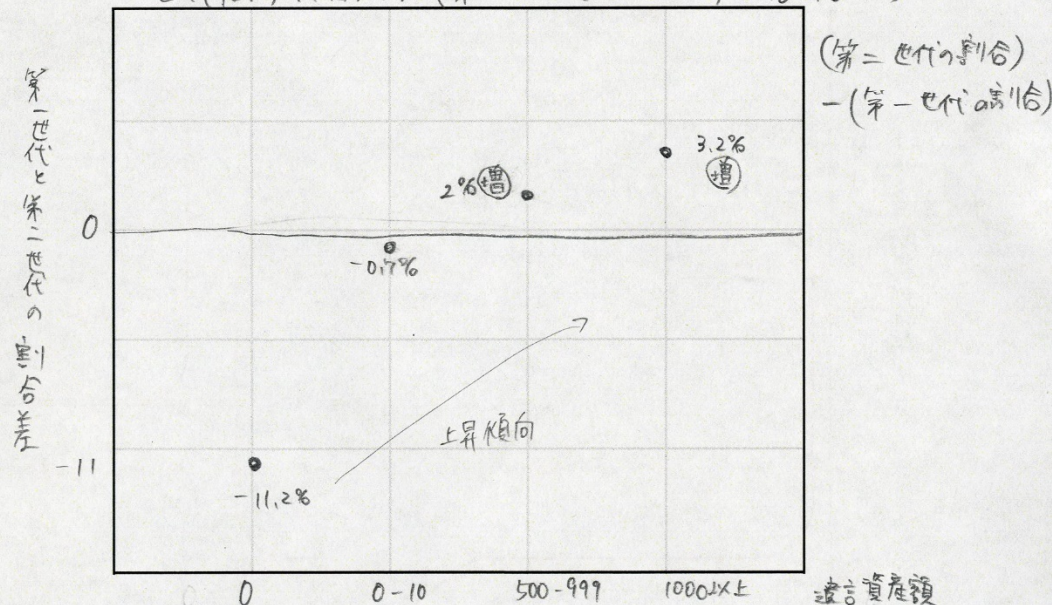
選んだのは



(A) 遺言作成者の存命の子供の数



世代間の人口変動 (第一世代と第二世代の占める割合の差)



これらを組み合わせて言えることは...

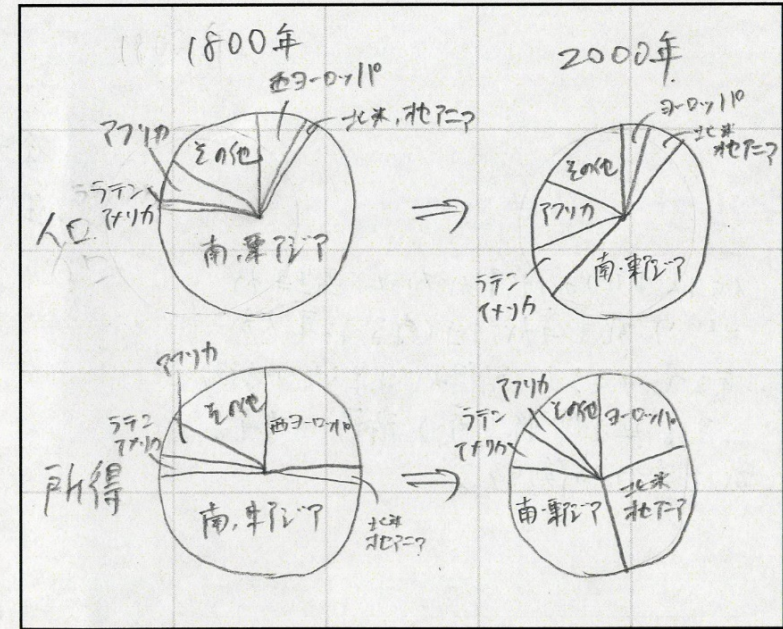
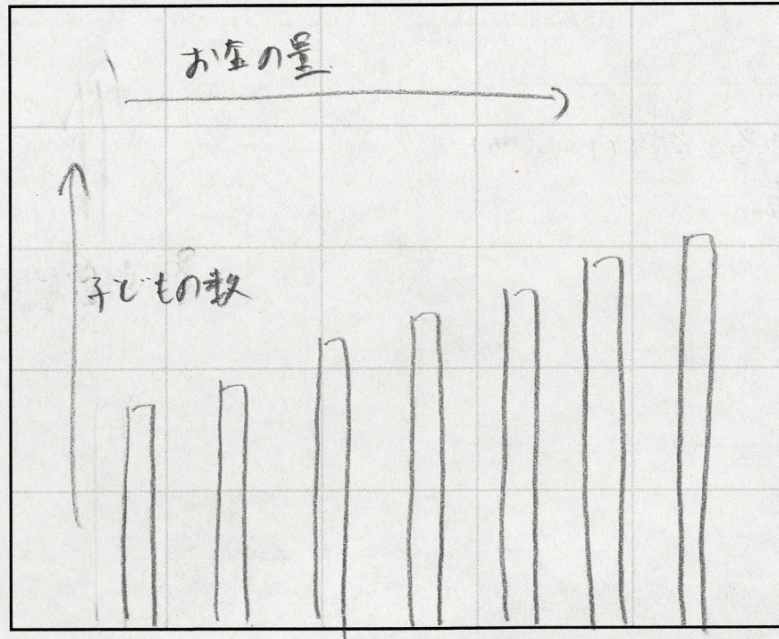
左の図から、遺産額が多いと、存命している子どもの数が多いことがわかる。
 右の図から、遺産総額が多いと、第二世代の割合が多くなっていることがわかる。
 よって、これらから、遺産額が多い → 子供が多い → 一家として繁栄することがわかる。
 「遺産」が多ければ、その一家は未来も安泰であることが考えられる。

円グラフで視角化

TITLE: 富めるものは、富む。

選んだのは

5 & 8



これらを組み合わせて言えることは...

個人レベルで見ても国レベルで見ても、お金がある人はどんどん富か
なっていく、ない人はどんどん貧乏になっている。

⑤より、金持ちの子にも思われ、その子どもたちも遺産でお金持ちになってゆく。

⑥より、金持ちの国はどんどん発展していて経済も発展するが、貧しい国はどんどん
貧しくなっているのが分かる。

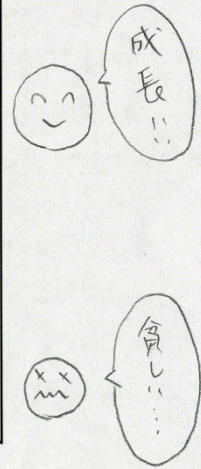
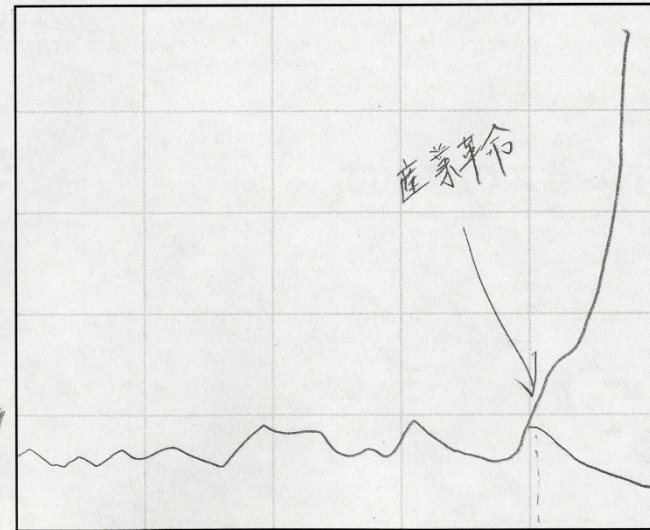
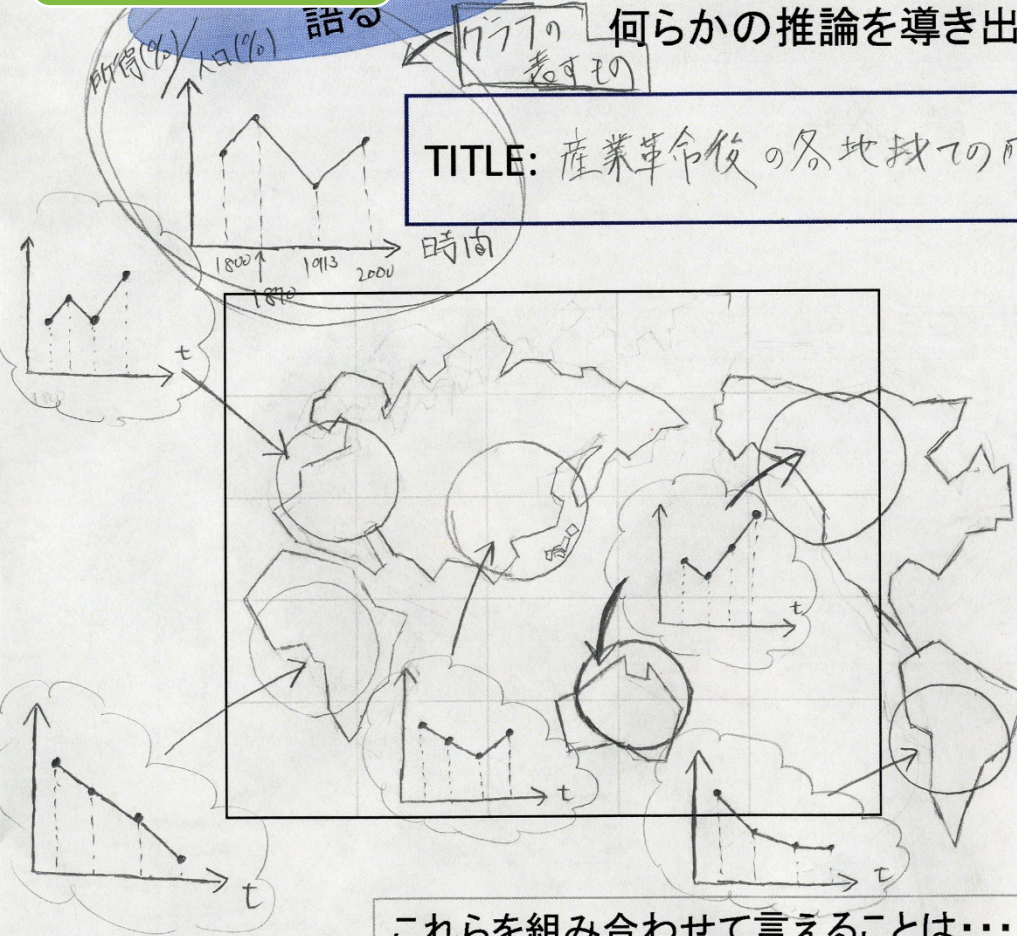
世界地図！

何らかの推論を導き出してください。

TITLE: 産業革命後の各地域での成長

選んだのは

8 & 0



これらを組み合わせて言えることは...

1800年の産業革命 (イ) 大きく成長する国と貧しくなっていく国がでてきた。
成長する国は 西ヨーロッパや北アメリカやオセアニアで、貧しくなっていた国は
アフリカや南アメリカである。もし、西ヨーロッパや北アメリカが「U」字に発展していっていることから
アジアや南アメリカで「このあと大きな成長が」見られそうである。
→ 実際大きな発展をしていく国が「多く」ある。

真の勝者は新大陸！

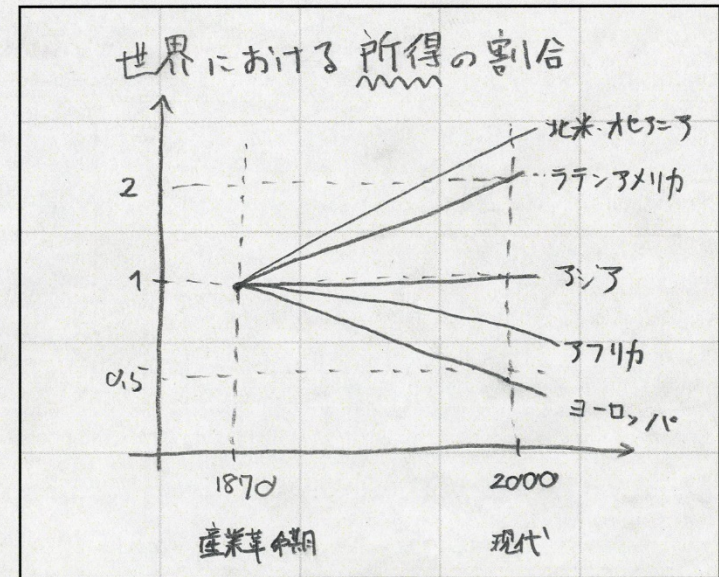
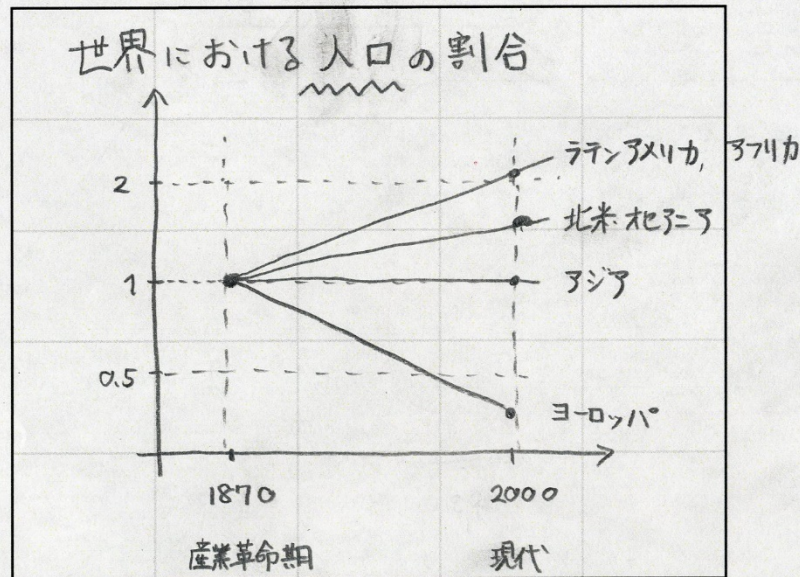
一人あたりなく
規模で可なり

TITLE: 20世紀の勝者と敗者
winner loser

最優秀賞

だのは

0 & 8



これらを組み合わせて言えることは...

1870年から2000年にかけて、世界に占める割合はどう変化したのか

- ・ 真の勝者 → 北米・ラテンアメリカ
- ・ 特に変化しない → アジア
- ・ 実は敗者 → ヨーロッパ

つまり、20世紀とは
新大陸の発展とヨーロッパの衰退だった